

1/25
January 2019 fri

The Shinkenpress
新建新聞 Vol.2764

特集号

発行：新建新聞社
本社・編集部：長野市南県町 686-8 電話 026-234-1118



第3回 “信州の木” 建築賞

小規模建築物の力強さ

第3回 “信州の木” 建築賞の対象は、地域に根差す小規模な建築物。その重要性が高まる一方にあることは論を待たない。歳をとってもなお元気に暮らせる長野県をつくるには、居住者・利用者の身体機能やライフステージの変化に対応するのみならず、地域コミュニティとの融和まで考慮した建物の新築・改修が不可欠だ。また数多の風雪に耐えて息づく地域固有の建築は、県民の独自性の発露であるとともに、魅力的な観光資源でもある。今回の受賞2作品から、小規模木造・木質建築物が持つ力強さをみていこう。



Contents

表彰式概要	
医療法人奥原医院	▼P3
満蒙開拓平和記念館	▼P2
第3回「信州の木」建築賞受賞作品	

第3回
信州の木
建築賞

最優秀賞

満蒙開拓平和記念館

建築主：一般社団法人満蒙開拓平和記念館 代表理事館長 寺沢秀文
設計者：新井建築工房+設計同人NEXT
施工者：吉川建設株式会社



■施設概要 用途：博物館 構造：木造2階 延べ床面積：482.78㎡

平和の尊さを学び語り継ぐ記念館 柔らかい光、記憶に残る空間

先の大戦中、中国東北部であった悲しい歴史を風化させること無く、次世代に語り継いでいく全国唯一の満蒙開拓に特化した記念館。賛同者の貴重な浄財でつくる記念館は、できるだけ質

素に、できるだけ力強くメッセージを伝える館として計画した。外観は大陸の建築のプロポーションと伊那谷の養蚕農家を感じられる形。とくに大陸の建築に必ずある煉瓦の煙突とポプラ並木は記念館のシンボルとなっている。

天に向かって林立する8対の地元の杉丸太で組みあげた架構に越屋根からの柔らかい光が差し込む。左右の登り梁が出会う部分を合掌と言ひ、光の中でまさしく木の命の永遠に想いを託して手を合わせる。この光の回廊を象徴とする館は、平和を祈る木造打放しの聖堂として記憶に残る空間づくりを目指した。

この館は、近代史の一つの事実をきちんと学ぶことに加え、悲しい歴史を平和への希望の力に替えていく一人一人の意識改革も迫っている。個人として間違いのない将来をきちんと判断できる能力を高めなさいと満蒙開拓平和記念館はこれからも語り継ぐ。

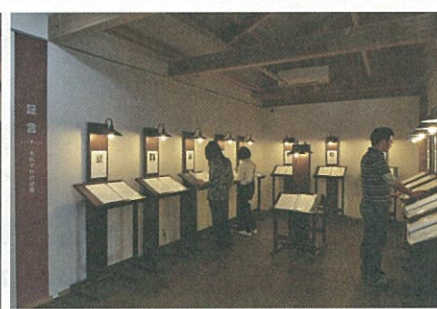


体験型の展示動線 高齢者に優しく癒しの空間

『なるべく質素に、なるべく力強く』下伊那の杉、檜を130㎡用いて組み上げた架構をそのまま、潔く構造即意匠の室内空間づくりとした大型木造建築。館内を巡ることにより自分も満蒙開拓団になった体験型の展示動線を考えた。その中央を光の回廊が貫く。

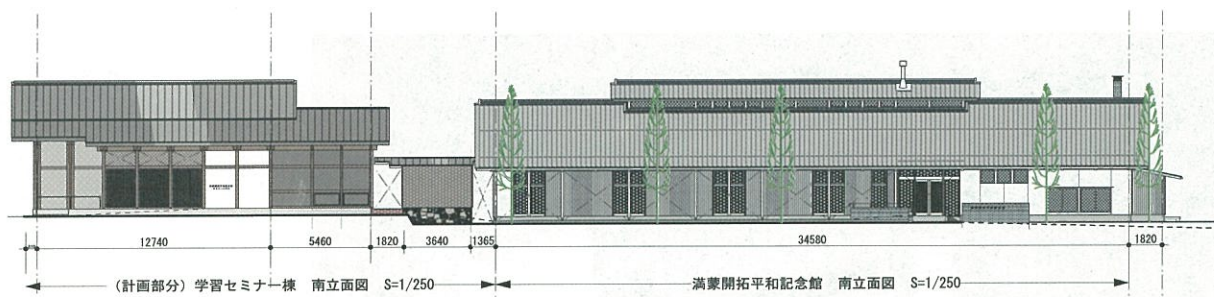
ヨーロッパの聖堂にならって8対の太い丸太柱が林立した回廊の向きは夕日が映える東西に合わせてある。単なる地域材でつくった施設建築の枠を超えて精神的に訴えかける木造空間づくりを目指した。

博物館としては禁断の自然光と重力差換気、薪を燃やすペチカと薪ストーブの炎が見える館は、90歳前後の帰国者たちを癒す。床は高齢者に優しい地元カラマツの木土間とした。



過去から未来へ。語り継ぐセミナー棟も計画

設計者も中国東北部を視察し、切り妻の大屋根に赤レンガの煙突が立つ満州の農村景観と、南信州の切妻の養蚕農家の佇まいを両立させた。これは昭和初期の世界恐慌で絹の価格が暴落し、寒村の家族が満州に向かった史実を形にしている。外構のポプラ並木も満州の景観をイメージする。満蒙開拓の史実を語り継ぐ記念館に加えて、将来の子どもたちに伝えていくセミナー棟の建設計画が進んでいる。過去と未来をつないでいく形としても表現していきたい。



■設計



新井建築工房+設計同人NEXT

代表 新井 優

事務所／飯田市松尾代田 1324-1 TEL・FAX 0265-24-2131

■施工

吉川建設株式会社

代表取締役 吉川 昌利

本社／飯田市松尾町 2-25 TEL 0265-22-3400

第3回
信州の木
建築賞

優秀賞

医療法人 奥原医院

建築主：医療法人奥原医院 理事長 奥原 佐
設計者：株式会社アーキディアック
施工者：木曾土建工業株式会社

藪原宿との調和ならびに 地域産材の利用と木工事の技術継承

奥原医院は、木曾郡木祖村の地域医療を担う診療所で、建物は木曾谷の谷間に位置し、周辺環境は西側に木曾川、東には藪原宿が存在する旧中山道沿いにある。設計に際し「藪原宿との調和」をコンセプトに、藪原宿のたたずまいと調和した外観を保ち、訪れた患者さんをやさしく迎える癒しの建築を意識した。外壁や板塀にはサワラを用い、

木製サッシには信州木材認証を受けたカラマツの集成材製品を使用し、「地域産材の利用」に努めた。建設工事においては「技術の継承」という視点から、地元木祖村の木曾土建工業による施工の中に木祖村建設協議会加盟の大工技能者に加え、木工事の技術を後世に引き継ぐ機会とした。



木曾川対岸の山々と庭に開き、 四季を感じる雰囲気

【建物内部】

待合などの空間は垂木構造による屋根形状と一体化されて天井高を確保し、トップライトから自然採光を取り入れ、明るく伸びやかで、ゆったりとくつろげる内部空間とした。またアクリル板による日射遮蔽と断熱性を併せて向上させ、大開口窓上下の開口部から自然の風を取り込み、開閉式のトップライトから排出する重力換気などランニングコストの削減も図っている。



木製の大きな開口からは、外部の庭に続く木曾川対岸の山々の景色が連続して室内に取り込まれ、内部空間でも四季を感じられる雰囲気とし、地域コミュニティの一端を担う、心地良く安心して過ごせる待合空間とした。

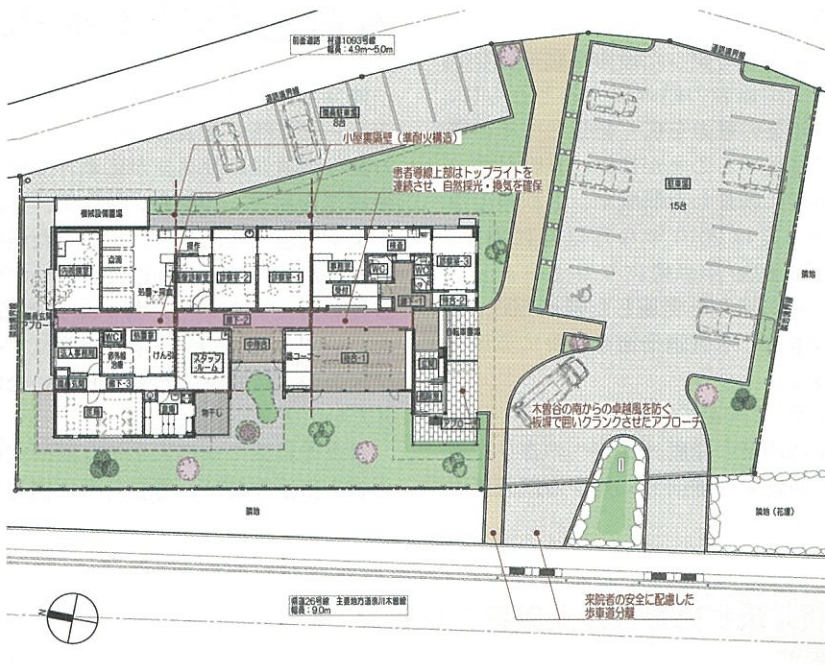
吹き抜け部分は、水平ブレースと両面を構造用合板で固めた水平耐震版を各部屋の区画に設けて剛性を確保。このほか、赤ちゃんや高齢者など椅子に座れない人が休める畳コーナーを設けている。

【動線】

建物中心を構成する患者動線上にトップライトを連続させ、自然採光や自然換気によりランニングコストを低減し、環境にやさしい建築を実現している。受付から診察室、処置室までのスタッフ専用動線は、迅速な医療活動とスタッフの疲労軽減に寄与している。



■施設概要 建物用途：診療所 構造・規模：木造平屋建て 延べ床面積：340.25㎡



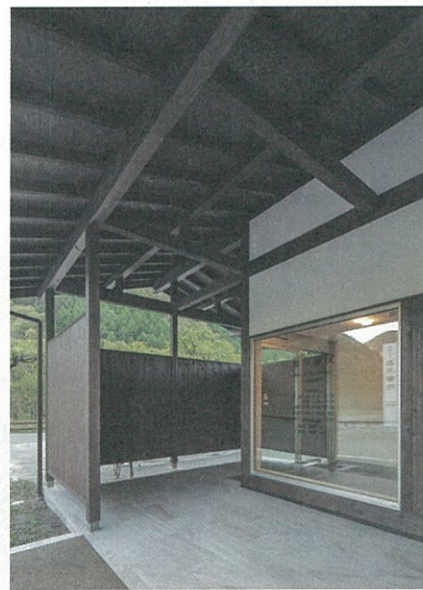
建築の機能性確保と環境への調和

【配置・建築計画】

県道からの来院者の導入は、歩道を分離する計画とし、歩行者の安全と車の出入への安全が両立するよう配慮した。木曾谷に沿って吹く南からの卓越風を防ぐため、板塀でクランク状にアプローチ部分を囲い、建物中心部への患者の動線を導いている。中心に貫かれた患者動線には、クラスター状に待合、診察室、X線室などの諸室を配置し、その動線上にトップライトを連続させ、自然採光・自然換気を確保したほか、延焼防止のための準耐火構造の小屋裏隔壁を設けている。

【外観・アプローチ】

屋根材は木曾谷に特徴的な錆び色の鋼板屋根を採用した。3つに分節し民家のスケールに合わせた屋根や、地域産のサワラ材による小幅板張りの外壁や板塀は、藪原宿のたたずまいに調和する意匠とした。板塀により囲われ卓越風を防いでいるアプローチは、軒天井と塀によって重苦しい感じにならないように、木曾川対岸の山の緑が感じられるよう配慮した。



■ 設計



本社 〒390-0852
長野県松本市島立1132-25
tel/0263-47-7766 fax/0263-47-0462
東京事務所 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町2-12信愛ビル5F

代表取締役 児野 登

株式会社 アーキディアック

一級建築士事務所 建築 都市 環境 情報

■ 施工

Kiso Doken 木曾土建工業株式会社

代表取締役 水本 豪

木曾郡木祖村小木曾 172 番地 2 TEL0264-36-2555 FAX0264-36-3655

第3回 “信州の木”建築賞表彰式

「『手本』たる建築」を重点に評価

地域に根付く 木造2作品が受賞

県内の優れた木造建築物を表彰する2018年度“信州の木”建築賞は、最優秀賞に満蒙開拓平和記念館（阿智村）、優秀賞に医療法人奥原医院（木祖村）を選んだ。

県産木材を使った優秀な建築物を表彰して関係者の励みにするとともに、木の建築の魅力を広く発信してその普及に寄与することが目的。長野県が一昨年度に創設した制度で、3回目となる今年度は2010年6月以降に新築、または1989年以降にリフォーム・リノベーションを実施した延べ500㎡未満の木造・木質建築物を対象に募集を行った。

結果22作品の応募があり、これを①木造建築の発展・保存への寄与②構造・耐火性能向上に対する創意工夫

③地域の文化・風土・景観との調和④環境負荷低減・省エネ提案——などの観点で評価。7作品が一次審査を通り、現地調査や関係者ヒアリングを行ったのち、最終的に2作品を選考した。

今後の 木造建築の「手本」に

昨年11月16日、上田市のサントミュージアムで開いた表彰式では、長野県の長谷川朋弘建設部長が応募作品の質の高さを称賛。「店舗や事務所、寺院や温泉施設など、地域に根付いた建築物が多かったのが今回の特色。いずれも携わった方々の熱い思いが伝わる」といい、とくに優秀賞・最優秀賞は「ぜひ今後の木造建築の参考にしていただきたい」と述べた。

審査委員長で京大生存圏研究所の五十田博教授は、審査基準に関して



長谷川朋弘建設部長



五十田博審査委員長

平成30年度 “信州の木”建築賞 表彰式



最優秀賞「満蒙開拓平和記念館」の受賞者(建築主・設計者・施工者)

平成30年度 “信州の木”建築賞 表彰式



優秀賞「医療法人奥原医院」の受賞者(建築主・設計者・施工者)

「これからの木造建築の『手本』になるかどうかにも重きを置いた。4号建築物であっても耐震や耐火への配慮をしっかりと評価した」と説明。一方で、たとえば木造4階建て建築にみられた

先進性、地域に溶け込む小規模建築のハードによらない融和性は「評価が難しかった」と話し「今後は評価指標についても議論を深め、よりよい賞を目指していきたい」と述べた。

新井氏と児野氏が受賞者プレゼン

「記憶に残る木造打ち放しの聖堂」

表彰のあとに行った受賞者プレゼンテーションでは「満蒙開拓平和記念館」を設計した新井建築工房+設計同人NEXTの新井優代表が、下伊那郡から中国東北部(旧満州)へ入植した開拓団の歴史を建築で表現したと説明。「下伊那から入植者が多かったのは、世界恐慌によって生糸が暴落したことが一因。地域の生活体験を含めた総合歴史教育の拠点をこの地につくる意味は大きい」と話した。

新井代表によると、外観を規定する切妻の大屋根は、大陸の建築のプロポーションと下伊那の養蚕農家を体

現。「深い庇の大屋根はそれだけで高温多雨の日本の木造の維持管理への配慮になる」という。そこに中国北東部の景観を象徴するレンガの煙突とポプラの並木をシンボルとして採用した。一方、内部は質素に、力強くメッセージを伝えるよう計画。8対のスギ丸太で組み上げた架構に、腰屋根から柔らかい光を取り入れる。新井代表は「左右の登り梁が出会う部分はまさに光のなかで手を合わせるイメージ。光の回廊を象徴とする館が平和を祈る木造打ち放しの聖堂として多くの人の記憶に残ることを願う」と述べた。

「診療所はコミュニティーの一端」

「医療法人奥原医院」を設計したアーキディアックの児野登代表は「木祖村にたった1件の診療所は『公共施設』の意味合いも強い」と指摘。村民のほとんどが利用すること、村の福祉計画にも関係することなどから「周辺環境、とくに藪原宿との調和を優先して考えた」と説明した。

児野代表によると、木曾谷に沿って南北に強い風が吹くことから、玄関を真南から振り、アプローチを扉で囲って風除けに。外壁とともにすべて地元材のサワラでしつらえ、景観との融合を図った。屋根も周辺に多い赤い切妻と

し、主屋に直行するかたちで下屋を3分割して配置、建物のスケールを抑えている。内部は患者動線を軸に待合、受付、診療スペースなどをクラスター状に配置。中心が暗くならないよう動線上部にトップライトを連続させ、明るく伸びやかな空間としている。児野代表は「待合の大開口部から庭が見え、向こうに木曾川、そして対岸の山が連続して見える。地域に1件の診療所がコミュニティーの一端を担い、四季を感じながら安心して過ごせる場所になればいい」と語った。

JIS・JAS製品と同様の指定建築材料となりました

国土交通大臣認定

信州型接着重ね梁

信州型SKB

小径木の有効利用と県産材の普及促進

特徴

- 1 選別された良材を組み合わせることで、安定した強度の梁材が得られる
- 2 間伐材から断面の大きな構造材が製造できる
- 3 接着層が少なく、木の美しさを生かした無垢材に近い質感が味わえる
- 4 接着剤の使用量が少ない

「接着重ね梁」は小中径木から梁せいの大きな横架材が製造できます。規格寸法の角材・板材の組み合わせにより、梁の高さを変えた生産と注文に応じた製品の出荷が可能です。

信州木材認証製品センター 事務局 / 長野県木材協同組合連合会

〒380-8567 長野県長野市岡田町30-16(長野県林業センター内) TEL:026-226-1471 FAX:026-228-0580 E-mail:spla-net@coral.ocn.ne.jp HP:https://shinshu-kiraku.net

Aタイプ
樹種●カラマツ
含水率●8~15%
製品寸法●幅105~150×せい240・300・360・450×長6000以下

Bタイプ
樹種●カラマツ、アカマツ、ヒノキ、スギ
含水率●8~15%
製品寸法●幅105~150×せい300・330・360・390×長6000以下

Cタイプ
樹種●カラマツ、スギ
含水率●15%以下
製品寸法●幅105~150×せい300・330・360・390・420・450×長6000以下

